

進路だより

NO.1

令和4年5月6日
都立小金井特別支援学校
校長 中島 雄佑
進路指導部 落合 敦子

入学・進級おめでとうございます。

今年は、小学部 28 名、中学部 27 名と大勢の新入生を迎え、気持ちも新たに令和 4 年度がスタートしました。今年度も定期的に進路だよりを発行し、保護者の皆様に進路指導、キャリア教育等の情報を随時発信していきたいと思っております。

○進路指導部メンバー紹介

今年度は以下の 7 名で担当します。進路に関する疑問や質問、お問い合わせなど、窓口として対応して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

担当主幹：落合 敦子

小学部低学年：高杉 弥生（2年） 道浦 佳代子（1年）

高学年：三國 さやか（6年） 小林 笑寧（4年）

中学部：吉岡 晴彦（3年） 須藤 隆太（2年）

○本校における進路指導、キャリア教育について

進路指導、キャリア教育というと、中学部や高等部卒業後に向けてのことと考えることが多いと思いますが、キャリア教育は、小学部 1 年生から始まっています。キャリア教育とは、児童生徒一人一人が社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するために必要な意欲、能力、態度を育てることです。また進路指導については、以下のように考えて取り組んでいます。

進路指導とは、単に進路先を決めることだけでなく、児童・生徒が自立に向けて必要な資質や能力を身に付けていくことができるよう、また主体的に自己の進路を選択し自己実現を図っていただけるように指導、支援していくことです。

本校では、小学部入学時から、高等部進学を控えた中学部 3 年生までの 9 年間の毎日の生活全般の中で、継続的、計画的に指導していくものと捉えています。

進路先を決めたり、学校卒業後の進路先を考えたりすることはもちろん、一日の生活、将来の仕事、自分の好きなことをして過ごす余暇の時間、それらすべてが進路学習であり、生涯にわたって充実した生活を送れるように導いていくのが進路指導です。

「進路指導の手引き（教員用）」（令和4年度より）

本校は、小中学部だけの特別支援学校のため、高等部の生徒をすぐそばで見ることが少なく、イメージがなかなかもてず、お子さんが高校生になった姿を想像することが、難しいと考えていらっしゃる方も多いと思います。特に今はコロナ禍のため、高等部の学校生活がどのようなもので、高等部の生徒達はどんな様子なのか、なかなか知る機会がないのが現状です。高等部へ進学するときまでに、どのような力をつけていけばよいか、よく分からないと感じている保護者の方も多いかと思っております。しかし、小学部、中学部での生活の一つ一つの積み重ねが、将来の大きな一歩となります。今、目の前のこんなことをできたらと考えて取り組んでいくことが将来、社会の中で生き生きと生活していくことにつながります。保護者の皆様、担任、進路指導部教員と一緒に考え、またお役に立てるようなキャリア教育や進路指導に関する情報もたくさん発信していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、身近な日常生活の指導について少し紹介させていただきます。子供たちは小学部に入学後、家庭とは異なる学校という集団の中で、社会生活を送るうえで大切な事柄を少しずつ身に付け、中学部、高等部に進むにつれて学習を深めていきます。自分の身の回りのことができる力、人と関わる力を身に付けることは、将来の自立と社会参加を促す基礎となります。

手伝ってもらって『できた』、一人で『できた』経験を重ねる中で、生活年齢に応じた課題に取り組み、さらに「お兄さん、お姉さんになりたい」「かっこよく過ごしたい」気持ちが強まるよう支援を行っています。以下、学部ごとの目標や取組の例を挙げていきます。

小学部低学年 ～歌を聴いたり、歌ったりして、楽しい気持ちで取り組もう！～

低学年の日常生活の指導では歌などの音楽を取り入れ、児童のやる気向上を図ることを大切にしています。ただ単に言葉だけで伝えても、児童の動機付けにはつながりにくいため、歌を活用し「楽しい」、「やってみよう」と思わせて指導することが、とても重要になってきます。

具体的には、手洗い指導では、手洗いの歌を歌うことで、児童が教員のやり方を真似て、手を洗うことが増えてきます。遊びの終わりの時に、片付けの歌を流すことで、自分から遊びをやめて椅子に座ったり、帽子をかぶって朝の運動の準備をしたりするなど、切り替えができるようになってきます。これらの行動が増えていくことで、少しずつ児童が主体的に活動できるようになり、日常生活力も高まっています。

小学部高学年 ～自分のことは自分でやろう～

低学年と比較すると日常生活の指導の時間が少し短くなります。朝や帰りの身支度では、一人一人の実態に応じて、一人でできるようになった児童はより丁寧に、また時間を意識して時計やタイマーを見ながら時間内に終わるといったことが目標になります。体も大きくなってくると、後ろから手を取って…といった指導は難しくなりますが、なるべく子供自身に取り組ませることで「自分でできた」という達成感を味わえるように、少しずつ自分でできることを増やしていきます。また、生活年齢に即した指導も大切にしています。二次性徴が現れる時期です。二次性徴に関わる身辺処理の指導はもちろん、特に男児のトイレについては、お尻を隠したまま排尿できるように練習しています。成長に伴い、足のサイズが大きくなるとマジックテープタイプの靴の選択肢が減って困るといった声も聞かれます。お子様の実態に合わせて取り組んでいる風呂敷やエプロンを結んだりする経験が、靴の紐を結べるようになるためのステップになっています。

中学部 ～かっこいい大人を目指して～

中学部では、通学服には、ワイシャツ（ポロシャツ）とスラックスやスカートの着用を勧めるなど、高等部進学後の生活を視野に入れながら学習しています。男子生徒はベルトの練習に取り組んだり、女子生徒はスカートをはいた時の立ち居振る舞いを身に付けるように支援したりしています。生活年齢が上がって、思春期に入る生徒たちに向け、「大人」に向けて身に付けるべき身だしなみ等を意識して指導を進めています。もちろん男子生徒の更衣室には男性教員が入って指導しますし、女子生徒のトイレ指導は女性教員が行います。

また、一人一人が係活動に日々取り組んでいます。クラスの中で役割を果たすことでお互いを認め合うことができ、また教員に頼まれて仕事を行い、感謝されることで、「役割を果たすこと」が喜びにつながります。このような関わり合いが社会の中で役割を担い、協力して生活していく力の育成につながります。

以上のように、それぞれの学部で生活年齢に応じた指導に当たっています。

「日常生活の指導」の学習課題の多くは、日々繰り返されるものであり、積み重ねが大きく期待できる事柄です。各御家庭と学校とで、ぜひ協力しながら取り組んでいきましょう。